



国際ロータリー第2590地区 川崎百合丘ロータリークラブ

Weekly Report

2013～2014年度

平成26年1月14日(火)
第1705回例会

会長 小塚 良雄
幹事 中村 和広
会報 中村 和広



作者の言葉
我ら百合丘ロータリー
のシンボルは百合の花
地味には有る様にかは
こゝ多量上はのあま
に見られ器出でこそ
知られたの流によりは
され少くも初見とそ
ちとと取まする
小の心はにその香
清風はにさよ
清純な乙せを感
せよとつてある
昭和五十年春五日
大友 良

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30
例会会場 ホテルモリノ7F TEL 044-966-1300

川崎百合丘ロータリークラブ ホームページ
<http://www.kawasaki-yurigaoka-rc.jp/>

第1705回例会記録 平成26年1月14日(火) 26/46回

- <点鐘> 小塚会長
- <ソング> 君が代 奉仕の理想
- <お客様ご紹介> 小塚会長
川崎稲生RC 原島小賀子様
- <表彰> 小塚会長
米山功労者に北島会員が表彰され、小塚会長より記念品が贈られました。
- <祝い事> 中島眞一親睦委員長
会員誕生 笠会員、尾崎会員、鈴木文夫会員、
安藤志子会員、山口会員、赤本会員
会員入会 中村幹事、渡邊会員、関山会員
配偶者誕生 嶋会員、渡邊会員、小島会員の奥様



- <会長報告> 小塚会長
先に、理事会報告です。
・先日関山会員の奥様が逝去されました。逝去を偲んで黙祷を捧げます。 - 黙祷 -
1/21(火)通夜 1/22(水)葬儀
・第2590地区負担金について、現況通り支払うことと承認されました。
・IM 2/12(水) 全員登録で申し込んでいます。
1/15(水) お手伝いのリハーサルがあります。指名された方、ご協力をお願いいたします。
・本日の議題にもなっておりますが、炊き出し体験試行のため、プログラムの変更が承認されました。
3/25(火) PETS報告→炊き出し体験
4/1(火) クラブフォーラム→PETS報告
以下、会長報告です
1. シドニー国際大会日本人親善朝食会の案内・登録依頼の件
6/1(日) Dockside コックベイワーフ2Fパーティールーム 6:30～8:30
2. 2014～15 ロータリー財団プログラムに参加する



第1707回	1月28日	クラブフォーラム
第1708回	2月4日	招聘卓話
第1709回	2月12日	IM

※諸事情により、スケジュールは変更になる場合があります。

ためのクラブ参加資格認定 覚書(MOU)提出依頼
3. ロータリー東日本震災復興プロジェクト申請再募集の件

<幹事報告>

中村幹事

*文書着 川崎高津RC 横浜あざみRC 横浜東RAC

*その他

・ロータリーの友、ガバナー月信が届いております。

<ニコニコ委員会>

阿久澤委員

川崎稲生RC 原島小賀子様→「あけましておめでとうございます。本日はお世話になります」。当クラブより、小塚会長→「新年にあたり、心を新たにしていってロータリー活動を展開していきたいと思ひます。ご協力の程よろしくお祈ひします」。中村幹事→「昨年末発行しましたガイドブック『箱根・小田原ごちそう大図鑑』の記事が読売新聞に掲載されました」。以下、感謝をこめてニコニコへ。赤本会員、安藤亨会員、安藤志子会員、鴨志田会員、北島会員、木庭会員、小島会員、中島健児会員、中島眞一会員、大矢会員、親松会員、尾崎会員、佐藤会員、白井会員、鈴木文夫会員、玉井会員、鶴丸会員、碓井会員、渡邊会員、山口会員、結城会員、菅会員、阿久澤会員。

<出席委員会>

安藤志子委員長

	会員	出席	欠席	マーク	出席率
第1705回	37	29	8		78.38%
第1704回	37	28	9	1	78.38%

<ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	26件	26,000円	656件	723,827円
財団	0件	0円	27件	325,000円
パネファクター	0件	0円	2件	200,000円
米山	3件	35,000円	22件	328,700円

<米山奨学委員会>

赤本委員長

安藤志子会員→「26日の誕生日感謝」。鈴木文夫会員→「60代もあと数日です」。赤本会員からも頂きました。

本日のプログラム

<クラブ協議会>

炊き出し体験について

小塚会長

私たちが暮らしている川崎北部地域は関東大震災以来大規模災害を経験していません。しかし大地震は明日にも起きうる自然災害であり、現代に相応し

い現実的な対策を立て、的確に準備していかなければなりません。多摩地区は津波の心配がないことや、比較的地盤が良いこと、建物の耐火・防火性能が当時と格段に違う事、交通・通信事情の変革等の安心できる要素もある反面、東日本大震災の教訓として、首都圏における交通網遮断による帰宅困難者の問題や、水、電気、都市ガス、情報伝達手段といったライフラインの断絶の他、便利になりすぎた反動による種々新たな問題点も浮上してきました。

『着眼大局、着眼小局』の視点で想定し、クラブ規模、予算、地域理解、活動意義等を考慮し、当クラブで出来得る社会事業として、実行可能と思える炊き出し体験を企画しました。

過去自然発生的に設営された炊き出しの場が、現実的に最も有意義に働くのが震災発生後の2~3日後であり、行政や広域支援体制が整う間の時期であろうと考えられます。従ってこの炊き出しに関わるノウハウを一度でも体験しておけば、最低限の準備のもとで速やかに容易に小規模の炊き出し場が設営できることと考えられます。

クラブの例会プログラムとして実行し、会員自ら『炊き出し』を思考し、試行することにより、この活動の意義と可能性を確認してみたいと考えました。結果としてクラブの社会奉仕事業の一つとして認められれば、定着させ、やがて地域や他クラブにも拡大・展開していきたいと考えております。



佐藤社会奉仕委員長

移動例会という形で3月25日に炊き出し体験を実行いたします。ロータリアンとして炊き出し体験という社会奉仕活動を通して、次年度にもつなげていけると思ひます。道具も食材も揃っておりますので、ぜひ参加してお米をといだり包丁を握って体験していただきたいと思ひます。